慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	文修飾機能をもつ副詞的表現の研究
Sub Title	
Author	呉, 雨 (Go, U)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2019
Jtitle	日本語と日本語教育 No.47 (2019. 3) ,p.87- 87
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20190300-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』47：87（2019.3）

〔大学院文学研究科修士論文〕

文修飾機能をもつ副詞的表現の研究

呉　　雨

本研究は、文修飾の成分になる連語表現「X＋にも」に焦点を当てて、副詞的用法をもつ「X＋にも」表現形式の語基「X」の特性を明らかにすることを目的にした。ここで言う「副詞的用法」は、品詞としての「副詞」の用法ではなく、「文を修飾する」という連用修飾機能をもつ副詞的表現の用法である。

まず、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」（2011）を利用して「X＋にも」形式の副詞的な用法となる表現形式のものを選定し、研究対象の用例を集めた。

また、文修飾副詞「X＋にも」の出現する構文上の位置により、以下の三種類に分類した。①「X＋にも」は文の最初に現れる場合、②接続詞、感嘆詞、時間副詞などの直後に「X＋にも」が現われ、その後ろに文の主語、述語が続く場合、③「X＋にも」が主語と述語に挟まれる場合になる。文頭に現れる文修飾副詞「X＋にも」が基本的であり、後続する文全体を修飾する機能をもっていることが明らかになった。

次に、文修飾副詞「X＋にも」の語基「X」の部分は、その品詞性として、ほとんどが形容動詞語幹であるが、「X＋にも」の「X」の出現度数を上位 10 例をリストアップすると、「意外、幸い、偶然、幸運、皮肉、不幸、無残、大胆、うかつ、不運」のようになる。文修飾副詞「X＋にも」の語基「X」の多くは漢語であるが、「哀れ」「幸い」「うかつ」「愚か」などのような和語もある。文修飾副詞「X＋にも」の語基「X」には漢語が多く使われ、漢語が中心的な存在である傾向が明らかになった。

そして、「X＋にも」の語基「X」は漢語、和語いずれにも、以下のような性質を持っていると分析した。

i　できごとの発生自体に対して話者の驚きなどの感情を表すもの。
　例えば、「意外」「偶然」「哀れ」などがある。

ii　できごとの発生が人間の運命と関わるという話者の評価を表すもの。
　例えば、「幸運」「不幸」「不運」「幸い」はこの種類に入る。

iii　発生したできごとに対する話者の価値観を表すもの。
　そのうち、話者が批判的な評価を表すもの。
　例えば、「卑怯」「傲慢」「愚か」のようなものがこの例である。
　逆に、話者の好意的な評価を表すもの。
　例えば、「親切」「勇敢」「寛大」「健気」などが見られる。

iv　話者が論理的に妥当だという判断を表すもの。
　例えば、「当然」「正当」などがある。

以上のように、文修飾機能をもつ副詞的表現「X にも」に見える、語基「X」の特性を明らかにした。